

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年9月27日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

8月の熊本は、やっぱり暑かった！

H28年8月の全国の天候

○北日本では顕著な多雨

(記者発表資料「8月の天候」気象庁から)

北日本 北日本では、台風第5号、6号、7号、第11号が相次いで接近・上陸し、前線や湿った気流の影響が加わり、月降水量はかなり多くなりました。

特に北日本太平洋側では、月降水量が平年比231%となり、統計を開始した1946年以降、8月として1位の多雨となりました。

○全国的に高温

日本付近は暖かい空気に覆われやすく、月平均気温は全国的に高くなりました。

○北日本日本海側と西日本では顕著な多照

北日本日本海側と西日本では、高気圧に覆われやすく、月間日照時間はかなり多くなりました。

異常気象？

日本に上陸した台風は4個(第7号、11号、9号、10号)で平年値0.9個を大きく上回り、ひと月の上陸数としては統計を開始した1951年以降ではトップタイとなりました。また、日本に接近した台風は6個で、平年値3.4個を上回りました。

全国の天気概況

8月は太平洋高気圧に覆われ、ほぼ全国的に月間日照時間が長く、強い日射を受けて全国的に月平均気温は高くなりました。

特に、黄海付近では高気圧の勢力が強く背の高い高気圧に覆われたため、月平均気温は沖縄・奄美でかなり高くなりました。

西日本でも下旬の中頃までは気温はかなり高く経過し、下旬の終わりは寒気が流れ込みかなりの低温となった日もあったものの月平均気温は高くなりました。

一方、日本の南海上では対流活動が活発で、月の後半は日本のはるか東で高気圧の勢力が強まり、その西縁にあたる東日本太平洋側から北日本を中心に台風や気流の影響を受けやすくなりました。

	気温平年差 ()	降水量平年比 (%)	日照時間平年比 (%)
北海道	1.9 (+)	209	122
日本海側		159	129
オホーツク海側		302	125
太平洋側		225	111
東北	1.1 (+)	190	124
日本海側		161	128
太平洋側		210	121
関東甲信	0.6 (+)	181	96
北陸	0.4 (+)	98	117
東海	0.9 (+)	84	115
近畿	0.7 (+)	103	122
日本海側		129	122
太平洋側		93	123
中国	0.5 (+)	120	124
山陰		145	123
山陽		90	124
四国	1.1 (+)	59	129
九州北部	1.2 (+)	59	135
九州南部・奄美	0.9 (+)	39	123
本土	1.0 (+)	27	126
奄美	0.7 (+)	96	108
沖縄	0.8 (+)	68	104

熊本県の天気概況

天気は、強い日射や湿った空気の影響で、午後を中心に雨や雷雨となった所がありましたが、高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。このため、高温・少雨・多照の傾向が顕著でした。

「月平均気温」については、5観測所において、従来の最高値が更新（又はタイ記録）された。

平成28年8月の気候統計

「熊本県気象月報 平成28年8月」
(熊本地方気象台から)

観測地点	月平均気温()		最高気温が35 以上の日数		日降水量が10mm以上の日数	
	H28年8月	平年	H28年8月	平年	H28年8月	平年
熊本	29.5	28.2	22	7.2	2	4.7
阿蘇山	21.5	20.4	0	0	7	7.1
人吉	27.7	26.3	19	1.6	3	5.5
牛深	29.3	28.1	6	1.6	1	4.6

月平均気温(記録更新及びタイ記録)

観測所名	更新値	従来の最高値(観測年月)	統計開始年
岱明	29.5	29.5 (2010/8)	1977
菊池	28.5	28.5 (1994/8)	1977
甲佐	28.2	28.1 (2013/8)	1977
水俣	28.6	28.6 (2010/8)	1977
人吉	27.7	27.3 (2013/8)	1943

熊本県、全国トップ！ ～ 熱中症による人口10万人あたりの救急搬送人員数

毎年、梅雨明けの頃になると、熱中症による死亡事故のニュースがテレビや新聞で報じられています。熱中症の要因としては、環境（気温が高い、湿度が高いなど）、からだ（高齢者や乳幼児、二日酔いや寝不足といった体調不良など）、行動（激しい筋肉運動、長時間の屋外作業など）の3つが関与していると言われ、特に、気温が一定のレベルを超えると急激に増加する傾向があります。

今年8月の熱中症による全国の救急搬送人員数は、21,383人で昨年同月に比べ、2,542人の減となっていますが、九州地方では増加しており、都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数では、熊本県が最も多く39.00人で、次いで鹿児島県35.97人、長崎県31.57人、岡山県31.21人、高知県28.55人の順となっています。

熱中症による人口10万人あたりの救急搬送者数

	5月	6月	7月	8月
1位	沖縄県 (9.69)	沖縄県 (17.36)	熊本県 (34.20)	熊本県 (39.00)
2位	佐賀県 (4.56)	鹿児島県 (6.73)	佐賀県 (31.20)	鹿児島県 (35.97)
3位	岡山県 (4.42)	熊本県 (5.65)	岡山県 (30.59)	長崎県 (31.57)
4位	熊本県 (4.06)	岡山県 (4.94)	鹿児島県 (30.20)	岡山県 (31.21)
5位	島根県 (4.03)	高知県 (4.94)	鳥取県 (27.19)	高知県 (28.55)

「平成28年5～8月の熱中症による救急搬送状況」(消防庁)

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、10月28日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp